

第44回中山地区文化祭は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、出展者、観覧者の密を避けるべく、10月18日(日)から11月3日(火・祝)までの期間、会場を中山公民館として地域の個人、サークル・団体の展示物の発表を中心に行われました。

今年度はウィルス感染対策のため、4月、5月と公共施設の利用が休止となったこと、その後も自主的な活動自粛等と思うようなサークル活動ができない中でしたが、今回の文化祭にはサークル、個人を含め計22の団体が作品を出展してくださいました。

延べ14日間の開催期間中に地区内外の観覧者計285名が中山公民館を訪れ、地域の方々の力作を鑑賞していきま

した。

第44回 中山地区文化祭開催

新しい生活様式の中での文化祭

新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」の中での初めての文化祭でしたが、多くの来場者が楽しめる催しとなりました。



11月1日現在の中山

世帯数 1,350
人口 3,233

【問い合わせ】
中山公民館報編集委員会
58-5822



中山児童センター作成の看板



パッチワーク(洞澤 ゆたかさん)



園児の絵画(中山保育園)



絵画(絵画同好会パレット)



絵画(中田 敏さん)



手芸作品(東條 淳子さん)



中山の行事・風景画(子ども会育成会)



工作(よちよち親子クラブ)



中山太鼓連の活動記録



草木染・テーブルランナー(荒井 美千子さん)



美術石・水石(中島 洋一さん)



書道作品(みやびの会)



松本つぐら同好会



木工作品(鈴木公民館長)



水車小屋(野村 秀康さん)



中山保育園の園児も見学に来てくれました



寄せ植え(中山地区福祉ひろば)



鈴木館長



星井 彰美さん



洞沢 佳久さん



平田 賢司さん



星井 淳さん

現在のメンバーは

以前は6人でしたが3年前に諏訪元久さんを亡くして以来5人です。26日目に入りました。

「芸術の秋にちなみ、わが町の音楽バンド『ぼこ・あ・ぽこ』を紹介します。バンドのリーダーで中山公民館長を務められている、鈴木幹夫さんにお話を伺いました。

「ぼこ・あ・ぽこ」

わが町のミュージシャン

結成とバンド名の由来は

僕が寿地区に暮らしていた時、学童保育の保護者会で諏訪元久(享年59歳・和泉)さんと出会い、音楽の志向性で共感し、1994年に二人で活動を始めました。

グループ名の「ぼこ・あ・ぽこ」は、彼の命名です。ポルトガル語で「ゆっくり、少しずつ」という意味がありますね。

諏訪さんは、復帰を夢みながら一年半気丈に闘病を続け、みんな回復を信じていましたが、3枚目のアルバムが完成した翌日に、永眠されました。

活動のきっかけは

18歳の頃に岐阜・中津川のフォークシンガー笠木透氏(享年77歳)の歌に出会い、衝撃と感銘を受けました。

人々の暮らしや自然を歌っていたからです。それまでそんなテーマで歌っている人はいませんでした。かつて「全日本フォーク・ジャンボリー」という野外フェスティバルを岐阜の中津川で日本では初めて企画・運営した人です。ここから日本のフォークソングの新しい歴史が始まりました。

こだわりは

地域の自然や人々のこと、世の中に対する矛盾や理不尽なことへの問いかけ、生きている実感などをわかりやすい言葉とメロディで表現したいと強く思います。

「文化は受け身ではなく、自ら作り出すもの、東京では



QRコードから「ぼこ・あ・ぽこ」の曲を聴くことができます。



今後の活動予定は

今年は3月以降あまり活動ができませんでしたが、少しずつ演奏ができる様になってきました。

11月は10日に「第二共立学舎一〇周年記念」、21日に中山でライブ(上和泉構造改善

センターで午後)29日に体にハンディを持ちながらも楽しく演奏活動が続ける「楽団ケ・セラ」と一緒に、芳川公民館でコンサートがあります。来年は、6枚目のCDアルバムを制作予定です。

「ありがとございました。こんな時世ですがコンサートが無事開催され、いい演奏が届けられることを期待しています。」



2年前から市内の公民館で行われている男性限定のフィットネスへ週一回通っている。

会員が50代・60代のためストレッチを長めに行いダンスや腹筋、腕立て伏せで体を動かして、最後にまたストレッチを行う、というメニューだ。

運動した後は汗が噴き出すが同年代の女性講師は呼吸が乱れていない、流石だと思っただ。今後も全集中の呼吸で体力維持を続けたい。